



# 都市交通計画を通してみた フランスの行政 ①

ヴァンソン 藤井由実



©The Yomiuri Shimbun

**フランスの地方都市は公共交通を  
導入して都心活性化に成功した**

長年の欧州での生活から一転して、2009年から5年間の日本滞在中に執筆した、『ストラスブールのまちづくり』のおかげで、『フランス地方都市の交通政策』を日本の自治体で紹介する講演を通して、日本の都市が抱える課題や抱負に接する貴重な機会を得た。この連載では、フランスの行政の在り方を、受益者の立場から、「公共交通政策LRTとバス、合意形成、市民参加の仕組み、少子化対策」などを中心テーマとして6回にわたりご紹介してみたい。パリやリヨンでの、乗り捨て可能なワンウェイ式レンタルサイクルシステムは有名だが、私が昨年9月に転居したアンジェ市役所は、住居証明書と、

デポジットを納めれば自転車を1年間無償で市民に貸し出している。自治体が自転車利用を促進するのは、「持続可能な発展が出来る低炭素社会の追及」が



写真1：車椅子やベビーカーが珍しくない都心。日本でこういった景観が見られるのはいつだろうか？(アンジェ市にて)

市民の共通コンセンサスだからである。

また現在フランスの28の地方都市には、LRT(最適な停留所と専用軌道を走るバリアフリー車輛。速達性や定時に優れ、高い運行頻度。運行情報を提供し改札が無い信用乗車。都市との一体性に配慮した高機能な路面電車システムを指す)の整備が進み、「高齢化社会に対応できる都市構造」が必要という問題意識が共有されている。都心には人があふれ、日本ではあまり見掛けない移動制約者(歩行困難者、車椅子やベビーカー利用者)の外出が大変多いことに気付かれるだろう。【写真①】  
程度の差はあるが、どの都市も芝生軌道敷設や沿線の緑化など交通手段と一体化した景観を形成してきた。車の都心への流入を制御する一方で、大型駐車場設置など車利用との共存も図り、



写真2: 緑空間、人、自転車にあふれる都心を走るLRT(ストラスブール市にて)

### モビリティは福祉・環境と一体化した都市戦略としての位置付け

バス、自転車利用の支援策やカーシェアリングシステムの整備なども進めてきた。歩行者専用空間やグリーンスペースも充実させ、80年代までは車の渋滞で人影が少なかった都心部でかつてのまちのにぎわいを取り戻した。【写真②】

なぜ運賃の一元化が可能か。地方自治体が政策主体となり総合的な都市域内モビリティプランを樹立し、軌道運送業務だけを民間に委託してきたからだ。社会運賃制度を導入して切符が低廉な為に生じる赤字は、交通税(地方自治体の直接財源となる目的税)など公金で補っている。この考えを支えているのは、市民に移動する権利を保障する「交通権」だ。つまりフランスではモビリティは環境と福祉と一体化して進められ、都市経済にも密接に結びついており、「交通手段」が「まちづくりの装置」「企業や学生の誘致手段」として明確に位置付けられている。

日本でも「交通政策基本法」成立や「地域公共交通活性化再生法」見直しにより、公共交通支援への社会的理解が深まってきた。危機感を持つ地方都市は、交通軸を生かして都市機能の集中化を図り、スプロール化を避けてコンパクトシティの構想を進めるだろう。その時に、民間と行政が協働体制を敷き、受益者の『利用しやすさ』を念頭において、都市交通サービスを供給できる運賃連合がこれからは必要とされる。

### フランスの都市行政への期待

フランスでは毎年『住みたいまち』の調査を、国立統計所の数字をベースにして

週刊誌が行っている。比較のパラメーター5つをみると、市民が市政に何を期待しているかが良く分かる。失業者が少なく(経済)、病院施設が整い(衛生)、社会住宅が充実(連帯)、住民1人当たりの緑空間が広い(エコロジー)都市が人気だ。ここでも『モビリティ』が大切な要素で、「自宅―通勤通学に要する時間」「公共交通専用軌道の充実度と利用者数」「自転車専用道路や徒歩専用空間の整備」等を比較しており、行政は「通勤に時間をかけずワークアンドバランスを達成しやすい地方都市」の実現に努めている。次回は人口50万以下の小都市がまちの生き残りをかけて、BRTや路線バスサービス等の充実に努めている様子を紹介したい。

### 筆者プロフィール

#### ヴァンソン藤井由実

(VINCENT-FUJII Yumi)

#### 「日仏異文化マネジメント」コンサルタント

大阪出身。1980年代より、パリを中心に欧州各地に居住し通訳として活動。2003年からフランス政府労働局公認の社員教育講師として、「日仏異文化研修」を企画。『トラムとにぎわいの地方都市・ストラスブールのまちづくり』(2012年度土木学会出版文化賞受賞・学芸出版社)、翻訳監修書『ほんとうのフランスがわかる本』(在日フランス大使館推薦書・原書房) <http://www.fujii.fr/>